

第3回 妹背牛町小中一貫教育検討委員会 会議記録

○日 時 令和4年10月28日(金) 14時～14時50分

○会 場 妹背牛町総合体育館研修室

○出席者 【委員】牛田委員、宗本委員、新保委員、奥山委員、
辻委員、竹山委員、土田委員、南委員、郡委員
【事務局】山下課長、川上主幹、下谷主幹

○議事記録(次第)

1.開 会

2.挨拶 妹背牛町教育委員会 教育長 廣澤 勉

3.報告事項

- ① HP への検討委員会資料・会議記録の掲載について
- ② 検討委員会だよりの発行について(第2号)

【議事の内容(要旨)】

報告事項の内容について、事務局より説明(①～②)

事務局 只今、①と②の報告がありました。委員の皆さんから何かご質問・ご意見はありませんか。

委員 なし。

4.協議事項

- ・答申書(案)について

【議事の内容（要旨）】

協議事項の内容について、事務局より説明

事務局 只今、答申書（案）についての説明がありました。皆さん、一通り目を通していただいた中で、内容がわかりづらいですとか、言葉遣いがおかしいですとか表現がおかしいなど、何でもけっこうですので意見を出していただければと思います。

委員 小学校で複式学級になることが予見されているとあって、そして令和8年度は管理職4人のうちの1人が担任として受け持つから、複式学級にはならないということですが、その年度は複式学級にはならないかもしれないですけれども、次々に人数が減っていったら複式学級になる可能性はあると思います。それで、この前の話しではならないということでしたから、複式学級になった場合は教員は町で補充するような形になるのでしょうか。

事務局 今回、この答申の中で書かせていただいているのは、複式学級を回避するための一つの手段ということです。副校長3人いるうちの1人を普通教員にさせていただいて、学習指導にあてられるということで、まず1人ならばそういう形で対応が出来ます。何年か経つと、また本町の場合は複式学級になる年がありますから、その時にはそうならないように教員を1人下さいということをお願いをするんですけれども、他の町も同じような状況ですので、簡単には良いですよとはなりません。そうなってくると、複式学級を解消するために町が負担して、教員を1人お願いします。それで、一つのクラスになるところを二つのクラスにしますということをやっていかなければならなくなるだろうということです。今回の答申の中では、令和8年度に起きた場合にはこういう形で対応するということも可能ですという書き方で、答申としてはこういう形になりますけれども、その後もずっと複式学級になるという可能性もありますので、その都度教育委員会としては、複式学級にならないように道教委に働きかけをしていこうと思っています。それが叶わない場合は、町として予算がつくのかどうか町長部局と話しながら対応していくという形になると思います。

委員 「本町における現状と課題」の中で、複式学級になることが予見されていると書いてありますが、例えば、子どもが特別支援学級に在籍となった場合に、人数が少ないから考えているよりも早く複式学級が出てくるといことが当然考えられると思います。複式学級が予見されると書いてあって、ずっときているから複式学級は避けるんだという捉えがありますから、そのためにただ道教委に請求するわけではなくて、こちらからも町に働きかけて、とにかく職員を最大3名確保出来る体制にしておかないと、この予見されますと書いてそのままじゃちょっと責任のない回答だなという気がします。

事務局 複式学級になることが考えられるので、一つとしては義務教育学校で対応しますけれども、また次と予見されますので、そういうことが起きた時には教育委員会として、こういう対応をしていかなければならないということ載せたほうが良いのか考えていきたいと思っています。

委員 載せたほうが良いのかどうかはわからないんですけども、そのへんははっきりしておかないと、私はこの文章だけ読んだら複式学級はもう義務教育学校になったら解消されるんだなと思ってしまいます。

事務局 それで、確実になくなるということではなく一つの手段ですとして考えられますという言い方を使ったところです。これで、義務教育学校としてやっても駄目な時には、その都度何かしらの方法を取って対応をしていきますというようなことを記載したほうが良いのかなと思っております。その時に適切な対応を取るよと申しますか、そういうような言い回しを入れておいたほうが良いのかなと思って聞いておりました。

委員 この答申（案）の中では、具体的に書けないのかなと思います。その書けないというところを押しえてもらいながら、今言いました後半部分を少し考えてもらって、先ほどの意見の中で心配されていたのは具体的にずっとこれでいくんじゃないかと思われたら困ります。その時にはどうなるのかわからないので、そこをうまく答申（案）として委員としてはなかなか強くは言えないところです。

事務局 複式学級が、また出た時の対応について考えて載せたほうが良いということでしょうか。

委員 それで良いと思うんですけども、私の頭の中では学校形態を義務教育学校にしようという大部分の理由が、教員が1人配置出来るので、それが複式学級を回避する方法だということが私の頭にありますので、そうするとちょっと何とかしておかないとインチキくさいなという感じがします。

事務局 今、おっしゃられたことはまた考えて、内容を見ながら付け足していこうと思います。

委員 どこに入れて良いかわからないですけれども、これを読んで気になったので言わせていただきました。

委員 結果の中で、「教育格差の是正について」という表現があるんですけれども、前半の結果の前にそのことにふれている部分が見当たりません。ただ、一体性があるという表現はあるんですけれども、そのへんはどうなんでしょうか。

事務局 4番に教育格差の是正にはということで書いています。小中一貫教育制度の導入と教育格差とは関連性があるので、分けて考えるのは難しいと思っています。私たちが考える教育格差は、人口減少による部分が大きく、小中一貫教育制度の導入も適正な人数を確保し、教育を行うという側面もあることから、そのことにより本町の課題がこの格差を含めて解消されていくという流れで最終結果に結びつけました。

委員 そのへんの前後関係は結果を出す全体の何か表記があって、その検討したものが結果として現れてくるのではないかなと思います。ただ、そのへんの仕方は色々ありますので、私もわかりませんので、ちょっと話させていただきました。

委員 前々回の委員会で、例えば義務教育学校と一貫校の比較の実験校のデータが出ていたと思います。そのデータで見ると、義務教育学校のほうが学力の向上幅が大きいというデータを出してもらいましたので、この教育格差の是正は妹背牛町の一つのポイントですけれども、そういうことで取り上げて全国的に合わせると、小中一貫校より義務教育学校のほうが実験データ的には上がっています。それで文科省が動いたわけです。そういう話がこの間ありましたので、それはそれで良いのかなと思って聞いていました。ただ、表現は町民の方がちょっと考えてわかりやすくした方が良いと思いますし、全国的に学力向上の効果があつたということを書く必要があるのかどうかを含めて考えたほうが良いと思います。

事務局 「本町における現状と課題」では、今はどこの町もそうですが、本町も少子化で子ども達が減って、学校の中でも単位としての人数確保が難しいので、そういうものが教育格差になっています。大きい都市とか人がいっぱいいる所にいくと、このような複式学級がどうなるかの心配はいらないですし、普通にクラスを組んで学習を受けられるという部分があるので、そのへんを解消するためには小中一貫教育制度を導入すると小中学校が一

体的な形となりますので、ある程度の人数の確保が出来るという部分で、教育格差の是正にも繋がっていくということを念頭に置いていました。当然、この義務教育学校になれば小中一貫教育になれば、学力的にも上がっているという結果も出ていますので、そこは皆さんもうご存じなのかなと捉えていました。

委員 諮問に二つの項目が出ています。考え方の2番、3番は導入について検討がなされて、メリット・デメリットが書いてあるのですが、教育格差の是正については、4番目の段階で表現はされていますというふうに捉えるには少し弱くて、やはり項目として教育是正についてはこうだよと記載するほうが良いのかなと思います。そして、妹背牛町の現状と課題があるのであればというふうにすれば、最初のほうに妹背牛町の現状と課題は何かというのがあって、小中一貫教育の導入とか格差の是正とか合わせて考えていくというような流れになっていくんじゃないかなと思います。それで、結果のところでは教育格差の是正と言っているんですが、やはり我々が諮問されたのは教育格差の是正なので、この項目というのは結果の前に項目として整理をしておく必要があるような気がします。それが、小中一貫教育の流れの中の関連として出るのであれば、それはそれとして表現をすれば良いことで、これだったらちょっと検討した内容としては表現として弱いのかなと思います。教育格差の是正というのはわかるんです。文章上の表現として、二項目諮問された項目については明確に検討した内容と、そして結果を記載して、だからこうなんですというものがあつたほうが良いかなと思います。それが、小中一貫教育と関連があるとか、そういうものの表現でもそれは差し支えないと思いますし、私は読んでいて教育格差の是正というのは、何か検討されたのかちょっと感じたものですから言わせていただきました。他の委員の皆さんがそれで良いというのであれば良いんですけども、私はちょっと諮問内容から考えたら、もう少し整理したほうが良いのかなと感じました。

事務局 答申(案)を考えた時に、これは私たちが考えている課程の話なんですけど、小中一貫教育制度についてどうなのかということをもまず考えて、教育格差についても色々と考えていて、問題点とか今までの検討委員会の中での意見などを踏まえながら考えた時に、この二項目を離して考えることは難しいと思いました。それで、答申(案)の最初のページのところの下から4行目に「また答申にあたっては・・・」ということで、「小中一貫教育制度の導入」と「教育格差の是正」というのは切り離せない関係にあ

るので、一つとして考えさせていただきます、課題として考えさせていただきます、その結果として小中一貫教育制度を導入することによって教育格差の是正にどうつながっていくかということによって考えさせていただきますという説明を入れました。ずっと途中はどちらが小中一貫教育制度の導入のことを言っていて、どちらが教育格差の是正のことを言っているのかというふうになってしまうのかもしれないんですけども、そういう流れでいって実は最後こうなって小中一貫教育制度を導入することによって、地域的に見られる教育格差の是正も解消出来て、本町においては複式学級もあるので、一つの方法としては義務教育学校にすることで対応が可能になります。そういうふうにやっていくことで、人数もある程度確保出来るので、地域的な教育格差というものをなくすことが可能になると考えますという流れの作り方だったんですけども、分けたほうがわかりやすいでしょうか。

委員　　まるめておいたほうが良い部分と、事務局が今説明したことを総合的に考えた時に、これまで将来的にこのままでは教育格差が生まれてくるのが十分予想されますので、それをなくすために小中一貫教育制度を導入することと、それはそれで良いですけどと言った時に、将来的にという視点を入れないと、たぶん先ほど言われたとおり二つ入れたほうが良いんじゃないかというのが出てくると思います。将来的に教育格差が生まれることが十分予想出来るので、それをなくすために格差を是正するために義務教育学校を作っていくんだということの良いのかなと思って聞いていました。

委員　　ちょっと説明があったほうが、聞いていたらそうかなと思いましたが、特に足さなくても良いんじゃないでしょうか。

委員　　時間軸を入れないと、将来的にということを入れて、そういう部分を含めて訂正したほうが良いのかなと思いましたが。

委員　　私もわからないんですけども、諮問された二項目というのは表に添付された項目として載ってこないと駄目なのかなと思います。一貫性がありますので、それで総括しますということは良いんですけども、やはりそれを教育格差の是正というのはどういう問題なのかという話があったかと思いますが、小中一貫教育と一連性があるのはわかるんですけども、だからこうでという結果の結びに行くのなら良いと思います。それと、4番目に「本町における現状と課題」とありますが、本来は考え方の一番上にこういう問題があるからこうこうこうなって、小中一貫教育制度の導入を検討して、その経緯とかその成果というものが出てくるのかなと思いま

す。それが4番目にきてしまうと、せっかくこういう問題があるから、小中一貫教育制度の導入を検討していきますという話になるのかなというふうに思います。

委員 現状的には、この答申（案）では将来の10年後20年後の妹背牛をどうするのかという視点で論理展開しています。例えば、今の現状がこうだからこうしなければならないという議論ではなくて、10年後20年後の妹背牛はこういうことが予想されるのでやりたいという論理展開をしていますので、それはそれで私は納得していました。

委員 これはこれで良いと思うんですけども、少し疑問に思っていたので言わせていただいたんですが、私が言っているだけなので、それは皆さんからも意見をもらって検討していければ良いと思います。10年後を見据えて行うのはわかります。

委員 私はこれで良いんじゃないかと、今言われたことを入れて、時間軸で将来的ということをもう少し明確にして付け加えたらわかりやすいかなと思います。これを町民の方がぱっと見て、たぶん同じ疑問が出てくるのであれば、時間軸をきちんと見せて、そしてちょっと付け加えたら理解が深まるかなと思っています。

事務局 わかりました。

委員 わかりましたと言ってますけれども、この文書を修正するのはけっこう難しいと思います。

事務局 自分たちですっと考えているので、何が良くて何が悪いのか段々わからなくなってきているのが正直なところなんです。こうやって皆さんから言われて、あっと気付くことが多いです。

委員 事務局としてはこの案を叩き台として出してきましたので、それはそれで良いんですけども、言うだけのことを言って無責任な部分もありますが、我々も中身を見て意見を言わせてもらっております。

事務局 意見を言っていたかかないと、頭の中が固まってしまっているの、逆にありがたいです。ただ、うまく生かせるかどうかはこれからまた時間をいただいて考えたいと思います。文章としては、あまり動かないかもしれませんが、今の部分はもっとわかりやすい表現で時間軸と将来に向けてということをきちんとわかるような表現で考えていきたいです。

委員 表現の部分なんですけれども、令和8年度には妹背牛小学校は複式学級になるという表現ですが、妹背牛小学校の一部学年において複式学級になることが予見されるとしたほうが良いと思います。これだったら、全学年

が複式学級になるというふうに読み取れるのかなと思います。それは5ページの4番のところにも同じ表現があります。それこそ、令和8年度の一部で複式学級が何となくなっていくのかなと思うんですけども、はっきり謳うことは出来ないので、今の話しによると括弧付けでそれ以降についても複式学級になっていく可能性があるような表現にしたほうが良いのかなと思います。

事務局 おっしゃるとおりだと思います。これだと、全学年が複式学級になってしまうような感じに取れます。実際に令和8年度の次は令和11年度にもまた新たに複式学級が出てくる可能性がありますので、将来的にもその可能性があるという言い方をすれば、うまく反映されたり繋がっていくと言いますか、時系列的なものを作っていければと思います。

委員 将来的にという話になっていきますけれども、それ以降についてもそういう傾向は否めないということも含めてのほうが良いのかなと思いました。

事務局 今、ご指摘いただいたところにつきましては、表現を考えて将来的にはということと、一部の学年ですよというところはきちんと整理したいと思います。

今、色々と皆さんからご意見をいただいたことは大きく3点くらいかと思います。そのへんをきちんと対応してもらえれば、何とか良いんじゃないでしょうかというようなことであれば、またこちらでお時間をいただいて、中身を練り直していきたいと思います。

次回の検討委員会なんですけど、12月末を予定しております。それまでに、こちらのほうで内容を作り変えたものをご用意して郵送させていただいて、検討委員会の前に一度目を通していただいて、次回の検討委員会の時に今日と同じような形で、皆さんからお話を伺って進めさせていただくかなというふうに思っております。

委員 一応、会議は会議なのでこの答申（案）については一部修正をもって、会議としては大枠は承認されたとはならないんでしょうか。その修正については、また皆さんに配って確認をしていただいて、今日出た意見は割とはっきりしているので、それは会議としては一部修正をもって承認されたとまとめてくれたらちょっと進むのかなと思います。

事務局 それであれば、皆さんから3点ほどご指摘をいただきましたので、そちらを修正した形で答申（案）のほうは今日のところは承認いただいたという形にさせていただいて、その修正部分につきましては、こちらのほうで修正したものを皆さんに郵送させていただきます。そして、次回12月に

会議を予定しておりますので、その時に結果を見ていただいて、問題がなければ次回で決定というような形に出来ればと思っています。

委員 それには二つありまして、一つは今のよう異論が出た場合には12月に引っ張っても良いですけれども、もし皆さんに送って異論がなければそれはそれで承認ということになるのではないのでしょうか。

事務局 私は修正して、きちんとしたものと思っていました。この答申(案)に対して、全然違うよということではなくて、概ね良いんだよと言っていると思っていますので、内容としては承認いただいたのかなと思っています。あとは、表現の仕方をきちんと指摘された部分を修正させていただくというふうに思っています。今回は、修正した形のものをご用意させていただきます。教育長への答申ということでは、令和5年の2月を予定しております。もう一つの施設整備検討委員会のほうの答申は、まだ答申(案)までは進んでいませんが、同じような形で2月に出来れば合わせた形で答申をしたいというふうに考えています。答申が出来る状態になりましたら、教育長のほうに答申をしたあとに2月中に教育委員会と総合教育会議ということで、町長と教育委員が協議する場があるんですけども、そちらにかけて説明をするというような予定をしております。そして、令和5年度に入って保護者や教職員の方に入ってもらって正式な名称は決まっていますが、検討部会を立ち上げた中で学校の校歌や制服・PTA組織など実際に学校運営に関することについて、少しずつ決めていきたいと考えております。

委員 答申書(案)の2ページの下から2行目、「観点から審議してきたところです。」とあるんですけども、その3行上に「審議を重ねてまいりました。」と書いてあるんですが、これは「審議してまいりました。」の表現のほうが良いのかなと思います。それと4ページのメリットの②のところですが、「学校間の段差」という表現とデメリットの①に「小学校と中学校の段差」と2箇所「段差」という表現を使っているんですが、これはどうなんですか。そういう表現で間違いはないのでしょうか。

委員 学校関係では、段差という表現はあまり聞いたことはないですが、私は古いですから、新しく使うようになったのかもしれませんが。文科省で使っているのであれば、それで問題ないと思います。

事務局 その文書を参考にしています。特に義務教育学校の説明しているあたりは、「段差」という表現が多いです。

委員 意味は伝わると思います。1回目の検討委員会で配布された文科省の資

料の中にも、「段差を緩和出来る」と使っております。

事務局 「まいりました。」の部分は、表現を統一したいと思います。

委員 6ページなのですが、義務教育学校の副校長三人体制というのは条例か管理規則などで調べられて間違いないという押さえでよろしいでしょうか。校内の運用というのか、教育委員会の運用というのか、そのうちの一人を一般の教諭にして担任にあてるとということも許される裁量の範囲ということでしょうか。

事務局 振り替えることで対応は出来ます。

委員 それは校長裁量でしょうか。たぶん学校経営のことだから、校長裁量かと思いますが、一応調べておいて下さい。

委員 確認よろしいですか。先ほど説明がありましたが、当初のスケジュールでは今年の11月に町民説明会、来年に入ってから教職員説明会となっておりますが、来年度になるという予定に変わったということでしょうか。

事務局 町民説明会については、11月後半から12月前半に町政懇談会を行う予定となっておりますので、その場をお借りして町民の皆さんには説明をしたいと思っております。あとは、本当は中学校にもお願いしたいところなんですけれども、中学校の保護者さんはほとんど新しい学校が出来た時にはお子さんが卒業されているということで、あまり関心がないという考えもありますので、特に保育所と小学校のほうにお願いして保護者を対象にした説明会を11月中に行いたいと思っております。現在、日程調整をしているところです。それにつきましては、私たちは人が集まる時に何回説明に行っても良いですとお話をさせていただいています。そうはいっても、保育所も小学校も大変かと思っておりますので、おそらく1回ずつになるのかなと思っております。教職員の説明についてはそう書いているんですけども、いつがよろしいのかご相談させていただいてから開催したほうが良いのかなと思っておりました。例えば、義務教育学校と決まってから説明したほうが良いのか、その時期というのは学校と相談させていただきながらというふうに考えております。そこは当初とずれています。

委員 まずは町民説明会を先にやってもらってということで良いと思います。

事務局 11月、12月には町民の方と保護者の方に説明を行いたいと思っております。今日の会議につきましては、これで皆さんからご意見がなければ、このまま閉じさせていただきますけれども、途中で思い付いたことがありましたら、事務局まで連絡をいただければと思います。

5.その他

次回の日程について

事務局 次回の日程についてですが、事務局としては2か月後の12月23日（金）時間はいつもより30分早いのですが、13時30分からとさせていただきますと考えております。

次回の協議内容については、諮問に対しての答申案の最終決定を予定しています。お忙しいことと思いますが、出席の程をよろしく願います。

以上を持ちまして、第3回目の検討委員会を終了いたします。

本日は大変ありがとうございました。